みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

国立民族学博物館研究報告 vol.9-4; 表紙,目次ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009235

1984·12 9巻4号

国立民族学博物館研究報告

●

サタワル島における伝統的航海術の研究
——島嶼間の方位関係と海域名称————秋道智彌

嘉戎語の人称接辞————長野泰彦

多言語使用と手紙
——ザイール共和国キヴ湖西岸の事例から————梶　茂樹

環日本海文化の変遷
——花粉分析学の視点から————安田喜憲

アステカ社会における衣裳と職務
——アステカ王権に関する一考察————小林致広

ポナペ島におけるキリスト教の受容をめぐる社会変化————中山和芳

国立民族学博物館

〒565　大阪府吹田市千里　万博公園　TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

9巻 4号　　1984年12月

目　次

サタワル島における伝統的航海術の研究
——島嶼間の方位関係と海域名称——……秋道　智彌……651

嘉戎語の人称接辞……長野　泰彦……711

多言語使用と手紙
——ザイール共和国キヴ湖西岸の事例から——……梶　茂樹……747

環日本海文化の変遷
——花粉分析学の視点から——……安田　喜憲……761

アステカ社会における衣裳と職務
——アテスカ王権に関する一考察——……小林　致広……799

ポナペ島におけるキリスト教の受容をめぐる社会変化……中山　和芳……851

彙　報……915

国立民族学博物館研究報告9巻総目次……922

国立民族学博物館研究報告寄稿要項……923

国立民族学博物館研究報告執筆要領……924

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 9 No. 4 **December 1984**

AKIMICHI, Tomoya — Island Orientation and the Perception of Sea Areas in Satawal (Central Caroline Islands) 651

NAGANO, Yasuhiko — A Historical Study of the rGyarong Pronominal Affixes 711

KAJI, Shigeki — Writing Letters: A Case Study of Multilingualism and Literacy in Eastern Zaïre 747

YASUDA, Yoshinori — The Sea of Japan: Influences on the Evolution of Japanese Civilization and Environment 761

KOBAYASHI, Munehiro — Costume and Social Stratification among the Aztecs: An Approach to Aztec Rulership 799

NAKAYAMA, Kazuyoshi — Social Change Involving the Reception of Christianity on Ponape, Micronesia, from the late-1820s to 1886 851

彙　報 (昭和59年7月～昭和59年12月)

評議員

氏　名	任　期
伊地智善継	(59. 9. 15～61. 9. 14)
市古　貞次	(59. 9. 15～61. 9. 14)
岡本　道雄	(59. 9. 15～61. 9. 14)
木田　　宏	(59. 9. 15～61. 9. 14)
北村　　甫	(59. 9. 15～61. 9. 14)
窪　　徳忠	(59. 9. 15～61. 9. 14)
久山　　康	(59. 9. 15～61. 9. 14)
沢田　敏男	(59. 9. 15～61. 9. 14)
鈴木　　尚	(59. 9. 15～61. 9. 14)
土田　直鎮	(59. 9. 15～61. 9. 14)
直江　広治	(59. 9. 15～61. 9. 14)
中尾　佐助	(59. 9. 15～61. 9. 14)
林屋辰三郎	(59. 9. 15～61. 9. 14)
向坊　　隆	(59. 9. 15～61. 9. 14)
村山　松雄	(59. 9. 15～61. 9. 14)
山田　信夫	(59. 9. 15～61. 9. 14)
山村　雄一	(59. 9. 15～61. 9. 14)
山本　達郎	(59. 9. 15～61. 9. 14)

運営協議員

氏　名	任　期
綾部　恒雄	(59. 9. 15～61. 9. 14)
石川　栄吉	(59. 9. 15～61. 9. 14)
伊藤　清司	(59. 9. 15～61. 9. 14)
富川　盛道	(59. 9. 15～61. 9. 14)
中根　千枝	(59. 9. 15～61. 9. 14)
山田　隆治	(59. 9. 15～61. 9. 14)
米山　俊直	(59. 9. 15～61. 5. 15)
藤岡　喜愛	(59. 9. 15～61. 5. 15)
伊藤　幹治	(59. 9. 15～61. 9. 14)
岩田　慶治	(59. 9. 15～61. 9. 14)
大給　近達	(59. 9. 15～61. 9. 14)
佐々木高明	(59. 9. 15～61. 9. 14)
中村俊亀智	(59. 9. 15～61. 9. 14)
和田　祐一	(59. 9. 15～61. 9. 14)

シンポジウム

「コンピュータ民族学への道」

日時　昭和59年9月16日（日）—23日（日）

場所　国立民族学博物館，東洋紡績総合研究所求是荘

摘要　国立民族学博物館では，コンピュータシステムを導入し，人文科学の一分野である民族学にコンピュータを積極的に活用することを試みてきた。その中の「コンピュータ民族学」部門では，民族学と計算機科学とを融合させた新しい研究分野の確立をめざしている。

このシンポジウムは，次のような趣旨のもとにひらかれた。まず，コンピュータ民族学の現状と成果を諸外国の研究者に紹介すること。次に，関連する人文科学分野におけるコンピュータ利用上の問題点について討論し，今後の国際協力の基礎を作ること。第3に，コンピュータ民族学が歩むべき方向を明らかにすること。

組織委員会

委員長

梅棹　忠夫　国立民族学博物館長

委　員

竹村　卓二　国立民族学博物館第一研究部長

佐々木高明　国立民族学博物館第二研究部長

伊藤　幹治　国立民族学博物館第三研究部長

加藤　九祚　国立民族学博物館第四研究部長

岩田　慶治　国立民族学博物館第五研究部長

秦　　明夫　国立民族学博物館管理部長

実行委員会

委員長

杉田　繁治　国立民族学博物館第五研究部助教授

委　員

栗田　靖之　国立民族学博物館第二研究部助教授

秋道　智彌　国立民族学博物館第二研究部助手
大森　康宏　国立民族学博物館第三研究部助手
久保　正敏　国立民族学博物館第五研究部助手
山本　泰則　国立民族学博物館第五研究部助手
磯村　　紘　国立民族学博物館管理部庶務課長
湯浅　叡子　財団法人千里文化財団専務理事
宇治日出二郎　財団法人千里文化財団事業部長

参加者

Louis D. Burnard　オークスフォード大学（連合王国）
Jostein H. Hauge　人文科学データセンター（ノルウェー）
Joseph Raben　パラダイム　プレス（前ニューヨーク　クィーンズ　カレッジ）（アメリカ合衆国）
Burghard B. Rieger　ドイツ技術大学（西ドイツ）
江口　一久　国立民族学博物館第三研究部助教授
八村廣三郎　京都大学情報処理教育センター助教授
久保　正敏　国立民族学博物館第五研究部助手
杉田　繁治　国立民族学博物館第五研究部助教授
山本　泰則　国立民族学博物館第五研究部助手

日　程

9月16日(日)　(千里阪急ホテル)
受付

9月17日(月)　(国立民族学博物館)
国立民族学博物館見学
開会式
第1セッション　(司会　岩田)
民族学研究におけるコンピュータ——道具および対象として（杉田繁治）
コンピュータ民族学—人文科学からの視点（Joseph Raben）

9月18日(火)　(国立民族学博物館)
第2セッション　(司会　Hauge)
人文科学における画像処理とコピュータ・グラフィックス（八村廣三郎）
第3セッション　(司会　杉田)
共同討議：日本の人文科学におけるコンピュータ利用の現状と展望

9月19日(水)　(国立民族学博物館)
第4セッション　(司会　Rieger)
民族学研究における映像情報検索システム（久保正敏）
松下電器茨木工場見学

9月20日(木)
松下電器門真工場見学
京都観光

9月21日(金)　(求是荘)
第5セッション　(司会　Burnard)
フィールドワーカーとコンピュータ——エンドユーザからみたコンピュタ民族学（江口一久）
第6セッション　(司会　久保)
知識ベースかデータベースか？——民族学におけるコンピュータの応用（Louis D. Burnard）
第7セッション　(司会　山本)
知識表現から見たコンピュータ言語学と文字情報処理——その発展・現状・将来像（Burghard B. Rieger）

9月22日(土)　(求是荘)
第8セッション　(司会　八村)
ノルウェーの人文科学におけるコンピュータ利用——その過去と未来の展望（Jostein H. Hauge）
第9セッション　(司会　Burnard)
民族学者とプログラミング（山

本泰則）
第10セッション　（司会　Raben）
総括討論

閉会式
9月23日(日)　（ホテル　レークビワ）
ビジネスミーティング

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
庄司　博史	助　手（第3研究部）	59. 7. 1	59. 8. 4	デンマーク，フィンランド
長野　泰彦	助　手（第1研究部）	59. 7. 1	59. 8. 30	ネパール
杉本　尚次	教　授（第4研究部）	59. 7. 3	59. 9. 5	西ドイツ，連合王国，スイス，オーストリア，アイルランド，ルーマニア
松山　利夫	助教授（第1研究部）	59. 7. 9	59. 11. 17	オーストラリア
小山　修三	助教授（第4研究部）	59. 7. 9	59. 11. 17	オーストラリア
黒田　悦子	助教授（第4研究部）	59. 7. 15	59. 10. 12	カナダ
藤井　知昭	教　授（第2研究部）	59. 7. 18	59. 9. 10	ネパール，インド
須藤　健一	助　手（第4研究部）	59. 7. 26	59. 11. 3	アメリカ合衆国（グアム，ハワイ），ミクロネシア連邦
周　達生	助教授（第1研究部）	59. 8. 3	59. 8. 8	タイ
松原　正毅	助教授（第2研究部）	59. 8. 5	59. 8. 21	中華人民共和国
梅棹　忠夫	館　長	59. 8. 6	59. 8. 19	中華人民共和国
栗田　靖之	助教授（第2研究部）	59. 8. 7	59. 8. 21	中華人民共和国
小川　了	助教授（第3研究部）	59. 8. 8	60. 2. 28	フランス，セネガル
江口　一久	助教授（第3研究部）	59. 8. 13	59. 9. 3	カナダ
加藤　九祚	教　授（第4研究部）	59. 8. 14	59. 8. 28	ソビエト連邦
田辺　繁治	助教授（第2研究部）	59. 8. 20	59. 8. 30	タイ王国
吉田　集而	助教授（第2研究部）	59. 8. 20	59. 11. 28	パプアニューギニア
永ノ尾信悟	助　手（第2研究部）	59. 8. 22	59. 11. 4	スリランカ，インド
森田　恒之	助教授（第5研究部）	59. 8. 31	59. 9. 30	フランス，デンマーク，ノルウェー
大森　康宏	助　手（第3研究部）	59. 9. 21	59. 10. 3	エジプト，ギリシア，フランス
和田　正平	助教授（第3研究部）	59. 10. 1	60. 1. 23	フランス，マリ，トーゴ，ニジェール，ベニン，カメルーン，コートジボアール
松澤　員子	助教授（第2研究部）	59. 10. 1	60. 1. 29	台湾
江口　一久	助教授（第3研究部）	59. 10. 1	60. 3. 11	フランス，マリ，コートジボアール，ベニン，トーゴ，ガボン，カメルーン

杉村　棟	助教授（第2研究部）	59. 10. 2	59. 10. 21	トルコ
福井　勝義	助教授（第3研究部）	59. 10. 24	60. 1. 24	ケニア，エチオピア，スーダン連合王国
守屋　毅	助教授（第1研究部）	59. 10. 26	60. 1. 8	アメリカ合衆国
端　信行	助教授（第3研究部）	59. 11. 2	60. 1. 31	フランス，カメルーン，西ドイツ
栗田　靖之	助教授（第2研究部）	59. 11. 10	59. 12. 17	ブータン，インド，ホンコン
加藤　九祚	教　授（第4研究部）	59. 11. 12	59. 12. 8	トルコ
石毛　直道	助教授（第4研究部）	59. 11. 20	60. 2. 9	タイ，バングラデシュ，インド，ラオス
ケネス・ラドル	助教授（第5研究部）	59. 11. 20	60. 2. 9	タイ，バングラデシュ，インド，ラオス
周　達生	助教授（第1研究部）	59. 11. 26	59. 12. 4	タイ
秋道　智彌	助　手（第2研究部）	59. 11. 26	60. 1. 4	パプァニューギニア，ソロモン諸島，バヌツァ共和国，ニューカレドニア，フィジー
佐々木高明	教　授（第2研究部）	59. 11. 28	59. 12. 7	中華人民共和国
松原　正毅	助教授（第2研究部）	59. 11. 28	59. 12. 7	中華人民共和国
友枝　啓泰	助教授（第4研究部）	59. 12. 2	59. 12. 16	メキシコ
竹村　卓二	教　授（第1研究部）	59. 12. 9	59. 12. 28	中華人民共和国，タイ
田辺　繁治	助教授（第2研究部）	59. 12. 18	60. 1. 31	タイ

来館者抄

7月3日　Sabahattin Turkoglu（トルコ，トプカプ宮殿博物館長）

6日　巫　協　寧
胡　利　富
蔣　偉　倫
（中国，上海医学交流代表団）

12日　Tibor Sekelj
（ユーゴスラビア国立イコム委員会理事）

21日　中国山東省文物視察団
団長　劉　　谷（山東省文物局副局長）
団員　蔣　英　炬（山東省博物館副館長）
楊　子　範（山東省文物局文物考古所所長）
姜　一　鸞（山東省博物館自然部副主任）
荆　南　松（山東省外事弁公室通訳）

23日　Muhammad Basir（インドネシア共和国，プドマン・ラヤット紙編集主幹）

23日　柴谷　篤弘（オーストラリアCSIRO 分子生物学研究所）

8月3日　中国雲南省博物館青銅器展訪日代表団
団長　高　徳　林（雲南省文化庁副庁長）
団員　李　家　材（雲南省博物館副館長）
呉　連　峯（雲南省旅遊局通訳）

孫　太　初（雲南省博物館研究部責任者）
胡　振　東（雲南省文化庁文物所幹部文物研究員）
高　宗　裕（雲南省博物館陳列部副主任）
闕　　勇（雲南省博物館文物研究員）

4日　玄　平　孝（大韓民国，済州大学校総長）

5日　和　興　革
李　振　洪
祝　揚　之
俞　文　虎
周　時　智
顧　士　明
曾　金　璽
（中国，内蒙古土木建築学会考察団）

23日　手塚　　晃（埼玉大学教授）

30日　Yolanda Ràmirez Prado（コロンビア，企画庁技術協力局社会・保険教育担当課長）

31日　王　大　道（中国，雲南省博物館文物考古研究人員）
鄭　名　垂（中国，雲南省博物館文物展覧総体設計人員）
陳　建　軍（中国，雲南省人民政府外事弁公室）

9月13日　森崎　久寿（アジア経済研究所長）

14日　第11回日米記者交換計画に基づく米国記者団
Andrew J. Dabilis（UPI 通信社ニューイングランド地区編集主幹）
Chris Dickon（WHRO テレビ制作局長）
John Lang（US ニューズ・アンド・ワールド・リポート誌編集総務）
Joan Mower（AP 通信社国内ニュース担当記者）
Terence Neilan（ニューヨーク・タイムズ紙外報部次長）
Charles Novitz（NBC ニューズ社ナイト・ニューズ担当部長）
Carrick Patterson（アーカンソー・ギャゼット紙編集主幹）
John Torinus（ミルウォーキー・センティネル紙経済編集局長）
Chris Waddle（アニストン・スター紙編集局長）
Ernie Ford（KSL テレビ報道部長）

17日　カナダ，ニュージーランド，オストラリア，マレーシア中学高等教員一行

18日　永井　道雄（国連大学長特別顧問）
河合　隼雄（京都大学教育学部教授）
ドナルド・キーン（アメリカ合衆国，コロンビア大学教授）
源　　了圓（国際基督教大学教授）

19日　岡田　節人（京都大学理学部教授）

21日　沈　迪　飛
王　海　華
銭　志　文
（中国科学院コンピュータ関係専門家一行）
エドガルド・アンガラ夫妻（フィリピン大学総長夫妻）

22日　丁　義　忠
王　維　達
（中国，上海博物館）

24日　中国雲南少数民族芸術団
団長　郭　兆　華（雲南省文化庁庁長）
秘書・通訳　周　東　亮（文化部対外連絡局）

団員　劉　　寅（昆明歌舞団）
龔　啓　森（雲南省歌舞団）
龔　全　国（雲南徳宏州歌舞団）
李　祥　之（雲南紅河州歌舞団）
普　蓮　紅（雲南石林演出隊）
普　玉　珍（雲南石林演出隊）
文　　遅（中国人民共和国駐大阪公使総領事）

29日　中国全国青連団
団長　劉　再　復（中国全国青年連合会常務委員・中国社会科学院文学研究所魯迅研究室副主任）
団員　阿　　嘉
王　迎　春
張　希　欽
鄭　玉　芳

10月2日　Julio Cesar Gancedo（アルゼンチン，ラテンアメリカ文化審議会会長，南米美術館協会会長）

10月4日　Haas Manndorf（オーストリア，オーストリア国立民族学博物館長）

12日　Marcio Villas Boas（ブラジル，ブラジリア連邦大学建築・都市計画学部長）

13日　Ake Daun 夫妻（スウェーデン，ストックホルム大学教授）

15日　李　昆　声
王　玉　貫
周　　紅
（中国，雲南省博物館）

16日　汪　慶　正
馮　衛　斌
（中国，上海博物館）

25日　田　　兵
燕　　宝
楊　国　仁
李　　朝
（中国，中国民間文芸研究会貴州分会），
荒尾　正浩（国立国会図書館長）

26日　Steffi Schmidt（西ドイツ，西ドイツ国立東洋美術館副館長）

11月1日　中国科学院学術交流代表団
岳　致　中（中国科学院副秘書長）
戴　以　夫（中国科学院弁公庁副主任）
郭　尚　平（中国科学院蘭州分院院長）
李　天　仇（中国科学院長春分院副院長）
呉　永　栄（中国科学院南京分院副院長）
呉　守　賢（中国科学院西安分院副院長）
萬　鐘　漢（中国科学院上海分院外事弁公室副主任）
柳　修　彰（中国科学院外事局職員）

2日　Adam Weinberg（アメリカ合衆国，ミネアポリス公立博物館教育部長）

4日　劉　開　渠，馮　　迪
王　鴻　勤（中国，中国美術館）

5日　中国四川文化科学考察団
団長　単　基　夫（四川省対外友好協会副会長）
団員　宋　錫　仁（四川省哲学社会科学学会連合会副主席）
朱　秉　璋（四川省文物管理委員会弁公室主任）
賈　智　華（四川省科学技術委員会成果所所長）
楊　　洪（四川省科学

技術センター通訳）

8日　Denis VARLOOT（フランス，国民教育省図書館・博物館・科学技術情報局長）

21日　Georges L. CONDOMINAS（フランス，東アジア文献・研究センター所長）

30日　第2回日中友好交流会議代表団

副団長　李　寿　葆（中国人民対外友好協会上海市分会副会長）

団　員　王　伯　興（中国人局対外友好協会河南省分会副会長）

甘　　榆（中国人民対外友好協会北京市分会常任理事）

郭　　敏（中国人民対外友好協会天津市分会秘書長）

馬　　勇（中国人民対外友好協会桂林市分会副会長）

鄭　民　欽（中日友好協会職員）

12月7日　王　幼　麟（中国，四川省文化庁副庁長）

宋　之　正（文物幹部）

賈　　克（四川省博物館副館長）

中国人民対外友好協会代表団

団長　費　孝　通（中国人民政治協商会議全国委員会副主席，中国社会科学院社会学研究所名誉所長，中国社会学研究会会長）

団員　張　君　秋，謝　鉄　驪

浩　　然，潘　乃　谷

張　和　平，劉　子　敬

邵　維　堅

8日　中国内蒙古自治区青年連合会ウランチウム訪日代表団

団長　葛　継　善（内蒙古青年連合会主席）

団員　劉　雲　山，莫　嘉　瑯

海　　青，李　　斌

拉　蘇　栄，李　　鎮

金　　花，杜　　鷹

李　　洪，巴　徳　瑪

阿　赫　塔，阿拉坦其其格

達　日　瑪，巴　　図

敖登格日楽

9日　Dr. Frits Vos（オランダ，国立ライデン大学名誉教授）

10日　Peggy Ann LOAR（アメリカ合衆国，スミソニアン・インスティテューション巡回展示部長）

11日　David JOHNSTON, Sharon JOHNSTON（カナダ，マギール大学長夫妻），

Fumiko I. SMITH（マギール大学日本研究所長）

13日　姜斗植夫妻（韓国，ソウル大学校人文学部長）

17日　Richard Lawrence BAR-THOLOMEW（インド，インド国立美術アカデミー事務局長）

18日　江　家　福（中国，広西民族学院長）

19日　石田　　寛（広島大学名誉教授）

国立民族学博物館研究報告　9巻　総目次

9巻1号

小山　修三：縄文人口シミュレーション…… 1
杉藤　重信
中村俊亀智：アチック・ミューゼアムのあとに
——財団法人日本民族学協会附属民族学博物館のこと—— …… 41
吉田　集而：会話場面における人の概念の類型論（Ⅲ）——類型の発達とその機構—— …… 59
木村　法光：カザフの木工調度——その接着・接合について—— …… 133
山本　真鳥：ファレアタの地縁組織——サモア社会における称号システムの事例研究—— …… 151

9巻2号

須藤　健一：サンゴ礁の島における土地保有と資源利用の体系
——ミクロネシア，サタワル島の事例分析—— …… 197
秋道　智彌：ニューギニア低地・ギデラ族における小児の病気と治療…… 349
大塚　和夫：アッラー，神，アラーの神——イスラームの日本的理解をめぐる一考察—— …… 383
大森　康宏：民族誌映画の撮影方法に関する試論…… 421
Kenneth Ruddle : Normative Models and Human Behavior:
Some Theoretical Issues in Household Resource Use…… 459

9巻3号

長野　泰彦：嘉戎語の動作の様態を示す接辞…… 483
永ノ尾信悟：古代インド祭式文献に記述された穀物料理…… 521
大丸　　弘：衣服標本属性論——MCD 標本シソーラス——Ⅰ 固有属性 …… 533
大森　康弘：民族誌映画の編集にかかわる試論…… 571
柴田　紀男：文字使用の目的…… 593
小川　正広：ホメロスの詩と文字使用…… 609
佐藤　　進：李朝の韻書と漢詩押韻の変革——文字使用政策の一例として—— …… 631

9巻4号

秋道　智彌：サタワル島における伝統的航海術の研究——島嶼間の方位関係と海域名称——…… 651
長野　泰彦：嘉戎語の人称接辞…… 711
梶　　茂樹：多言語使用と手紙——ザイール共和国キヴ湖西岸の事例から—— …… 747
安田　喜憲：環日本海文化の変遷——花粉分析学の視点から—— …… 761
小林　致広：アステカ社会における衣裳と職務——アテスカ王権に関する一考察—— …… 799
中山　和芳：ポナペ島におけるキリスト教の受容をめぐる社会変化…… 851

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は，民族学（文化人類学）に関する論文，資料・研究ノート，調査研究活動報告等を掲載・発表することにより，民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は，次のとおりとする。
   (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織，運営に関与する者
   (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
   (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は，論文，資料・研究ノート，調査研究活動報告等のうち，いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお，この区分についての最終的な調整は，国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は，原則として論文及び資料・研究ノートを1段組，その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は，日本語，英語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし，その他の言語を用いる場合は，編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字，記号，印刷方法等が必要な場合は，編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で，日本語を使用する場合は，原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし，その他の言語による論文の場合は，編集委員会に相談するものとする。なお，寄稿する原稿については，執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は，原則として制限しない。ただし，編集する場合は編集委員会の判断により，紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は，必ず清書（欧文の場合はタイプ）し，原稿の写し1部を添付するものとする。なお，図，表のスミ入れ，レタリングは，編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は，審査委員会において審査のうえ，採否を決定する。なお，原稿は，採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い，掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては，別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は，次のとおりとする。

〒565　大阪府吹田市千里　万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は，200字詰原稿用紙を使用し，横書きとする。
2. 原稿は，図，表を除き，原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は，原則として当用漢字，現代かなづかいを用いる。
4. 句読点，括弧，各種記号等は，原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号，月日及びその他の数字は，原則としてアラビア数字を用いる。なお，年号は，原則として西暦とする。
6. 図及び表は，一図，一表ごとに別紙に書き，本文とは別に一括して添付するものとする。なお，図，表ごとに通し番号（「図1」，「表1」等の要領により記入），図，表名及び説明並びに出典等を記し，本文原稿の欄外には，それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は，写りの明瞭なもので，手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り，図及び表の扱いに準じて通し番号，説明を付けたうえ，そう入箇所を指定するものとする。ただし，カラー写真は，原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は，カギ括弧を付け，著者名，文献刊行年次，引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

   [柳田 1942: 67-69]

   [Leach 1961: 123]

   [柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

   ただし，同年次刊行物の場合は，アルファベット順により，下記のように記載するものとする。

   [柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は，一つ一つ別紙に記し，通し番号を付ける。なお，本文中に脚注をそう入する箇所には，脚注の当該番号を記入し，別紙の脚注には，本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は，すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

   (1) 文献の配列は，著者名のアルファベット順とすること。

   (2) 文献の記載は，著者名，年号，論題（タイトル），誌名，巻，号，出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は，イタリック体にするため，原稿には下線を引くこと。また，ローマ字人名は，スモール・キャピタルとするため，二重下線を引き，日本文の場合は，論題にカギ括弧，雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は，原則としてアラビア数字を用いること。

   （例）

   論文の場合 (1)

   石田英一郎

   1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330。

   Bohannan, P.

   1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

   論文の場合 (2)

   杉浦 健一

   1942 「民間信仰の話」 柳田国男編『日本民俗学研究』 岩波書店，pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23–63.

単行本の場合

泉　靖一

1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀　一郎訳　冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告　9巻4号

〔監　　修〕
梅　棹　忠　夫
〔編集委員長〕
加　藤　九　祚
〔編集委員〕
永ノ尾　信　悟
大　塚　和　夫
君　島　久　子
ケネス・ラドル
杉　村　　棟
友　枝　啓　泰
垂　水　　稔
長　野　泰　彦
藤　井　龍　彦
松　原　正　毅
和　田　正　平

昭和60年3月28日　発　行　非売品

国立民族学博物館研究報告　9巻4号

編集・発行　国立民族学博物館
〒565　吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印　　刷　中西印刷株式会社
〒602　京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.9 no.4
December 1984

AKIMICHI, Tomoya	Island Orientation and the Perception of Sea Areas in Satawal (Central Caroline Islands)
NAGANO, Yasuhiko	A Historical Study of the rGyarong Pronominal Affixes
KAJI, Shigeki	Writing Letters: A Case Study of Multilingualism and Literacy in Eastern Zaïre
YASUDA, Yoshinori	The Sea of Japan: Influences on the Evolution of Japanese Civilization and Environment
KOBAYASHI, Munehiro	Costume and Social Stratification among the Aztecs: An Approach to Aztec Rulership
NAKAYAMA, Kazuyoshi	Social Change Involving the Reception of Christianity on Ponape, Micronesia, from the late-1820s to 1886

ISSN 0385-180X

National Museum of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151